



“景気後退”の説明と対応法①

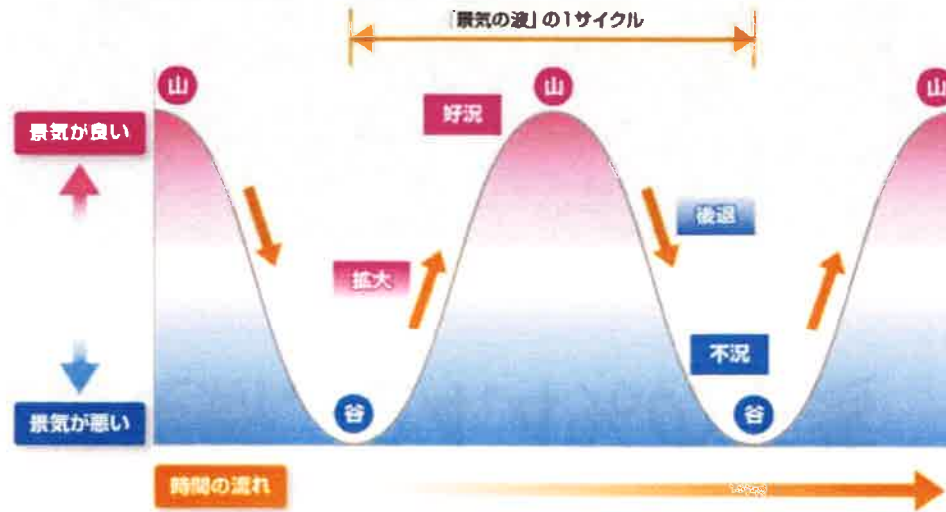
景気後退の定義: 2四半期以上連続でマイナス成長

【景気拡大期】



増産、設備投資、
人の採用を拡大

「景気の波」のイメージ



【転換期】



過剰生産、在庫の
積み上がり

名称	周期	おもな原因
コンドラチェフの波	50年～60年	技術革新
クズネツツの波	20年	建設・建築
ジュグラーの波	10年	設備投資の変動
キツナーの波	2年～4年	在庫投資の調整



“景気後退”の説明と対応法②

日本と米国の景気循環

● <日本の景気循環の周期（月数）>

期間（年/月～年/月）	全循環	拡大期	後退期
1951/10～1954/11	37	27	10
1954/11～1958/6	43	31	12
1958/6～1962/10	52	42	10
1962/10～1965/10	36	24	12
1965/10～1971/12	74	57	17
1971/12～1975/3	39	23	16
1975/3～1977/10	31	22	9
1977/10～1983/2	64	28	36
1983/2～1986/11	45	28	17
1986/11～1993/10	83	51	32
1993/10～1999/1	63	43	20
1999/1～2002/1	36	22	14
2002/1～2009/3	86	73	13
2009/3～2012/11	44	36	8
2012/11～現在の景気循環	-	71*	-
平均	52 (4.4年)	36 (3.0年)	16 (1.3年)

🇺🇸 <米国の景気循環の周期（月数）>

期間（年/月～年/月）	全循環	拡大期	後退期
1945/10～1949/10	48	37	11
1949/10～1954/5	55	45	10
1954/5～1958/4	47	39	8
1958/4～1961/2	34	24	10
1961/2～1970/11	117	106	11
1970/11～1975/3	52	36	16
1975/3～1980/7	64	58	6
1980/7～1982/11	28	12	16
1982/11～1991/3	100	92	8
1991/3～2001/11	128	120	8
2001/11～2009/6	91	73	18
2009/6～2020/4	130	128	2
2020/4～現在の景気循環	-	-	-
平均	75 (6.2年)	64 (5.3年)	10 (0.9年)

1～2年、長くて3年
景気後退の期間は、

* 2012/11～の拡大期の期間は、暫定値のため平均値の算出から除外しています。

(注1) 四捨五入の関係上、合計が合わない場合があります。
(注2) 数値が発表されていない箇所は「-」で表記しています。

(出所) 内閣府、全米経済研究所 (NBER) のデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

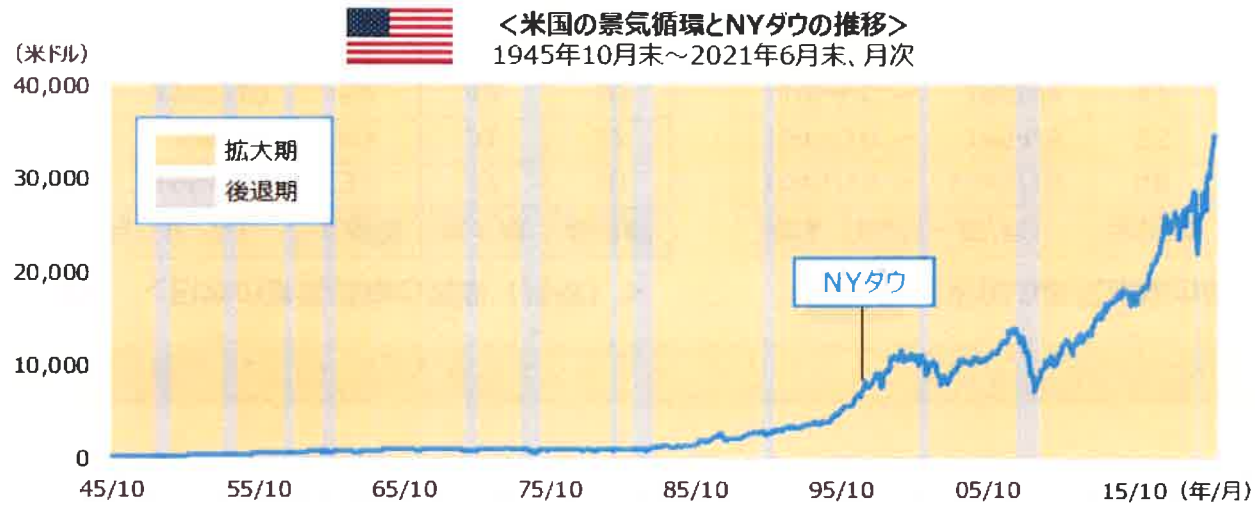
景気拡大期と比較すると、
景気後退期は期間が短い傾向があります。



“景気後退”の説明と対応法③

景気後退なくして成長なし

景気後退を糧に成長する



(注) 日経平均株価、NYダウはいずれも現地通貨ベース、プライスリターン。
 (出所) 内閣府、全米経済研究所 (NBER)、FactSetのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成
 ※上記は過去の実績であり、料来(来)の投資成果や今後の市場環境等を示唆あるいは保証するものではありません。

図11

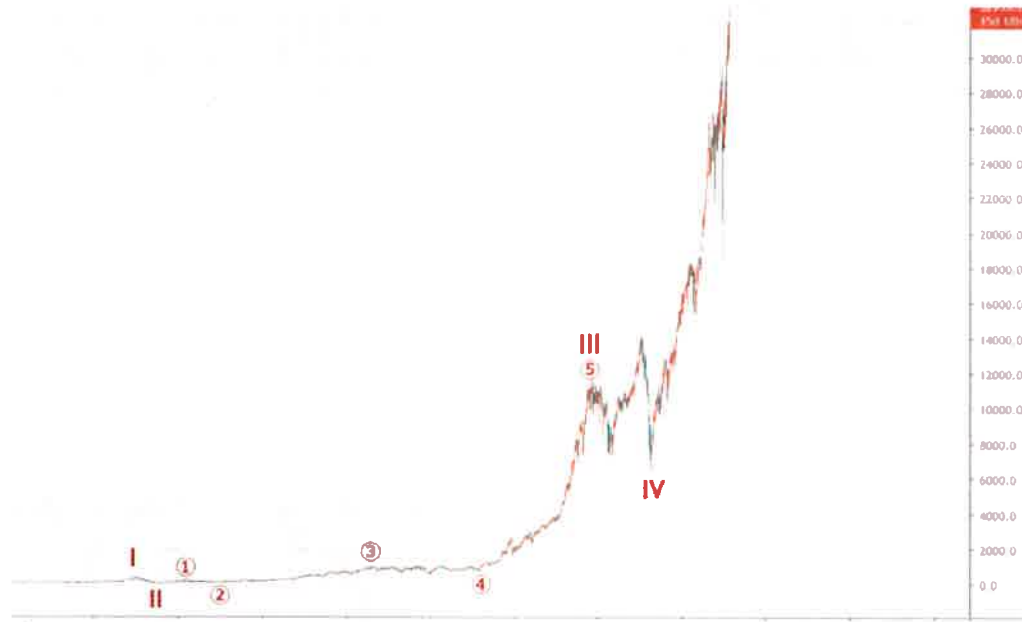
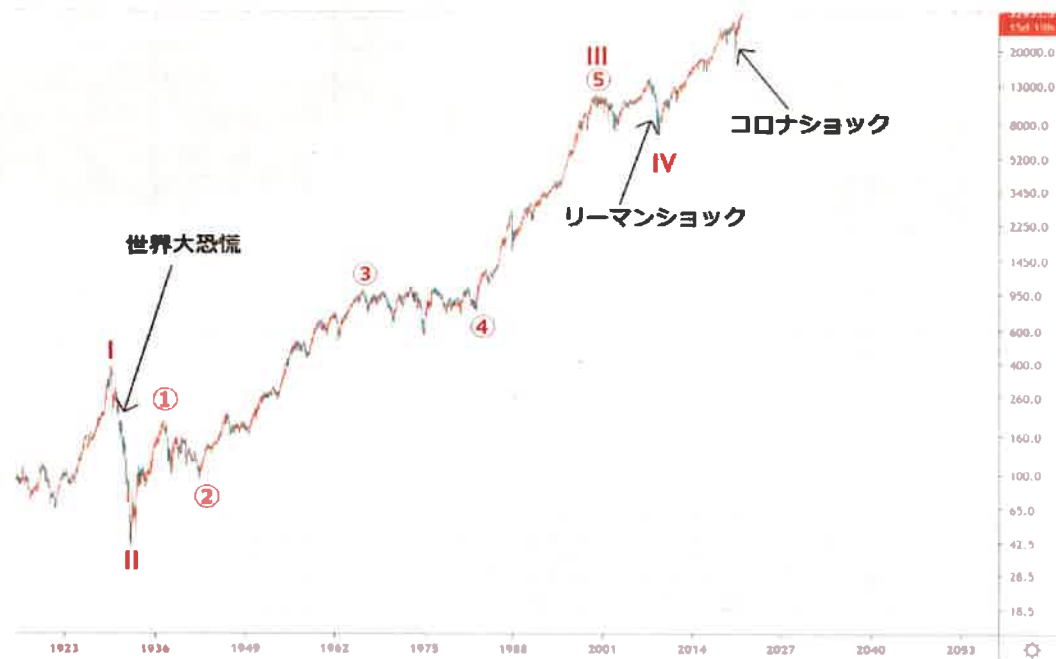


図12



長期チャートは対数表示で